中林たかしの一般質問

詳細はQRコードでご覧ください。

木次線と観光について

問 ＪＲが示した輸送密度などのデータをどう受け止めるか。

答（市長） ＪＲは線区ごとに区切ったデータを論点にしているが、鉄道は公共性が高く日本国民の資産だ。一区間の収支のみをもって議論することは適当でないと考える。

問 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正され再構築協議会を設置できる。協議会設置をどう評価するか。

答（市長） 鉄道事業者または沿線自治体の申出により国が主催する。地方公共交通のあり方を話し合い、その結果について国が財政的な支援を行うもので一定の評価をする。

問 木次線の活性化にはイベントより日常的な利用促進が重要、具体策を伺う。

答（政策企画部長） 市内高校への通学生の確保やダイヤ改正、アクセス改善など利便性の向上にむけ様々な対策を実施する。

問 市長の考える広域観光とはどのようなものか、具体を伺う。

答（市長） 私の考えは、様々な観光資源をテーマ、切り口として関係自治体と連携を深め、観光振興と地域の活性化を目指すもの。例えば、「たたら」をテーマとして奥出雲町と安来市と鉄の道文化圏への取組み、鉄の加工技術の視点から新潟県三条市との連携もある。木次線利活用推進協議会や出雲の國・斐伊川サミットとの連携もある。

問 広域観光を木次線の利用促進にどのように結びつけるか。

答（産業観光部長） トロッコ列車最終年を盛り上げる取組や「たたら」をテーマとした国内産地を巡るツアーなどＪＲと連携して取り組む。木次線利活用推進協議会で本市をはじめ松江市、出雲市、安来市などの観光地を結ぶツアーに木次線を組み込む。

問 トロッコ列車の最終年を次年度以降の「あめつち」にどうつなげるか。

答（産業観光部長） 観光協会は記念ポロシャツの作成、日本郵政では記念切手の準備をしている。また、ＪＲとは停車中の車両見学等、乗車以外の活用も協議している。トロッコ列車のラストランを盛り上げ雲南の魅力を全国に発信し全国からの誘客に努める。

結 ラストランを終えたトロッコ列車は木次駅に保存すべきだ。木次体育館横にあるＣ56・108蒸気機関車を木次駅に移設、トロッコに連結すれば立派な観光資源になる。

水道局の事務について

問 先般、市が管理すべき浄化槽で点検と清掃が行われていなかった不適切な事案が明らかになった。原因と対策を伺う。

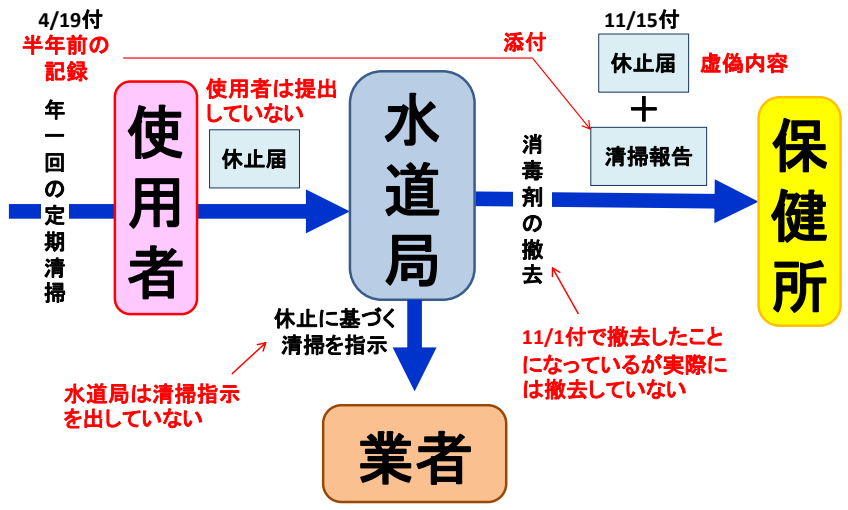
答（水道局長） 不適切な浄化槽は15基、18世帯分だ。水道局の事務手続で休止・再開の確認が不十分で浄化槽管理業者に誤指示を出していたことが原因だ。事務処理方法やチェック体制を見直し、再発防止に努める。該当者の方に深くお詫び申し上げる。

問 私の考える原因は違う。本人から休止届の提出はあったか。

答（水道局長） 本人ではなく貸家の管理業者からだ。

問 個別浄化槽の設置及び管理に関する条例によれば使用人（本人）から提出と規定されている。条例違反ではないか。

答（水道局長） 今まで電話連絡で行ってもよい、ということで貸家の管理業者から受付けていた。条例に則っていない点があった。



浄化槽の使用中止時の事務フローと実際に行われた事務フロー

問 浄化槽法では「使用の休止にあたって浄化槽を清掃し、知事に届ける」と規定されている。浄化槽の休止にあたり清掃を実施したか。

答（水道局長） 確認していない。休止の指示を出した際、清掃は行っていなかったと考える。

問 環境省関係浄化槽法施行規則によれば休止届の提出にあたって浄化槽の清掃記録を添付することになっている。いつ清掃を行ったか、日付はいつか。

答（水道局長） ・・・。

問 答弁できないのは清掃を行っていないから。保健所に提出した休止届には

◇報告日　＝令和3年11月15日
◇休止日　＝令和3年11月1日
◇消毒剤撤去日＝令和3年11月1日
◇清掃日　＝令和3年4月19日
◇休止理由　＝生活実態がない

と記載されている。実際には消毒剤の撤去が行われていない、清掃は本来なら休止日以降にしなければならないのに半年以上前の定期清掃の実績報告を添付、休止の理由は「生活実態がない」と、いずれも虚偽の報告書が作成されている。単なる事務ミスが原因ではない。法律に基づく事務を日常から行っていないことが本当の原因。順法精神が欠如しているのではないか。

答（市長） まずもって、今回ご迷惑をおかけした市民にお詫びを申し上げる。指摘いただいた内容について精査し、改善すべきところは改善に努め、再発防止策を講じる。

問 中止期間中の使用料金は返却すべきだ。

答（水道局長） 汚水を流すことが出来ていたので使用契約の不履行にあたらず返却しない。

問 納得できない、提訴されれば支払わなければならない可能性が高い。生活排水をきれいな水に処理して河川に放流することが浄化槽管理者である市の責務。市の責任は問われないか。

答（市長） 市として責任を重く感じる。今後、適正な事務処理に戻し責務を果たしていく。

現在、雲南市上下水道料金等審議会で実質値上げとなる水道料金の見直しが審議されています。一般質問では水道局の不適切な事務について取り上げました。このような状況で値上げについて市民の皆様の理解が得られるか懸念されます。（たかし）